

住民投票は

鳥取市庁舎問題

市民の決定を即市長に実行せよ

現位置
での

新築移転を拒否

「耐震改修」

住民投票で市民は、市庁舎の新築移転を拒否し、耐震改修を選択しました。
鳥取市長は市民の決定を実行するのが常識です。

市民の決定をつぶす、市長の態度は許されない



竹内鳥取市長は、「『耐震改修案が不可能になった段階で、幅広い可能性について検討する必要がある』などと、新築移転案を含めた整備計画の再検討を示唆する発言を繰り返し」ました。(毎日新聞 11月3日号)

市長が、住民投票の結果をひっくり返すことは許されないことです。

議会は市長に市民の決定を実行させるべきです

耐震改修案を作るのは市長、議会はチェック

議会は 20.8 億円の耐震改修案を検証してきました。本来、住民投票の結果を受けて、市長が耐震改修案を作成すべきです。市民の決定を市長にせまるのが、議会の仕事です。

日本共産党は議会に対し、このことを一貫して主張してきました。

市民の意思は明らかです。いま議会がすべきことは、市長に市民の決定を実行させるようせまることです。



市民の声を生かした耐震改修案に

いま議会が検証している耐震改修案は、市民の声を生かした案ではありません。市民の声を聞かずに議会が作ったものです。

日本共産党は、「耐震改修案は市民の声を取り入れていく」という提起をし、全会一致で確認しました。

市長は市民の声を取り入れて、早急に耐震改修工事に取り組みないといけません。

日本共産党は
こう考えます

費用を抑え現位置での耐震改修を



市庁舎の耐震改修は、駅南庁舎など市の施設の有効活用も視野に入れて本庁舎の耐震化を行い、費用は極力抑えるべきです。日本共産党は市民の声を生かした耐震改修の実現をめざします。

日本共産党